



2020年3月11日

各位

会社名 H a m e e 株式会社
 代表者名 代表取締役社長 樋口 敦士
 (コード番号: 3134 東証第一部)
 問合せ先 執行役員CFO 富山 幸弘
 (TEL. 0465-42-9083)

通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2019年12月11日に公表した2020年4月期の連結業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 修正の内容

2020年4月期通期連結業績予想数値の修正 (2019年5月1日～2020年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	11,141	1,269	1,295	889	56.02
今回修正予想 (B)	11,288	1,427	1,438	974	61.29
増減額 (B - A)	146	158	142	84	
増減率 (%)	1.3	12.5	11.0	9.6	
(ご参考) 前期連結実績 (2019年4月期)	10,302	1,163	1,179	821	51.16

2. 修正の理由

第3四半期連結累計期間における実績を勘案して通期の連結業績予想を修正するものであります。なお、新型コロナウイルスの感染拡大による当社業績への影響について、現時点において「iFace」シリーズの調達先である韓国所在の工場が通常どおり稼働しており、国内卸販売については予測が困難ではあるものの、国内小売の販売状況には特段の変化がみられないことから、ただちに大幅な売上減少等を見込むものではありませんが、状況は非常に流動的であるため、開示すべき事象が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

(1) コマース事業

国内コマース事業について、2019年9月発売のiPhone11シリーズ向け及び値下げの動きが強まった旧型iPhoneシリーズ向けの双方において「iFace」シリーズの需要が高まったことを背景に、小売の実績が計画を大幅に上回って推移したことに加え、2019年11月から12月にかけて一時的な調整の動きがあったものの、本年1月に大手携帯キャリアショップ向けの販売が伸長するなど、卸販売についても売上計画をクリアいたしました。また、利益率の高い商品の販売増加による商品構成の変化により、利益率も改善が進みました。

一方で新型コロナウイルスの感染拡大など、不確定の要素も存在するため、第4四半期会計期間のコマース事業については当初の計画を据え置くと同時に、連結子会社等の費用増加要素などは引き続き保守的に織り込みました。これにより、売上高は9,189百万円(前回予想比0.8%増)、セグメント利益は2,002百万円(同2.6%増)となる見込みであります。

(2) プラットフォーム事業

連結子会社H a m e e コンサルティングについて、経営課題解決のための諸施策が奏功し、コンサルタントの離職率低下が実現するなど業績については改善傾向にあることから、第3四半期においては保守的に見積もった下期の修正計画を上回って推移いたしました。

ネクストエンジンについては引き続き売上高、セグメント利益ともに期初計画を上回って推移しているため、売上高は1,833百万円（同0.3%増）、セグメント利益は528百万円（同8.4%増）となる見込みであります。

(3) その他

ふるさと納税支援サービスについて、需要最盛期となる12月の実績が計画を上回ったことから、その他セグメントの売上高については、前回予想より70百万円増収の264百万円（同36.4%増）となる見込みであります。なお、同セグメントにはI o T分野の新サービスに対する研究開発投資が含まれているため、セグメント損益は248百万円の損失を見込んでおります。

（注）上記業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以上